創世記　第１章　１節

「初めに、神は天と地を創造した。」

このように語られなければ、初めがどうであったのかわからない。このように語られたことは、聞く者たちがいることを想定してのことである。語ることを聞かない者もいる。語りに出会い一時だけ聞く者もいる。語りに出会い、それから聞き続ける者もいる。しばらく聞き続け途中で耳を閉ざす者もいる。生涯聞き続ける者もいる。どのような聞き方をされたとしても、このみことばは語り続ける。これを聞かないことにはなにも始まらないからである。始まらないどころか、すべてが虚しく、台無しになるからである。

それにしても、語る直前にこれを聞きなさいと迫っていないのは不思議だ。聞くことがすべての在り様に関わる一大事であるにもかかわらず聞くことを促し、忠告、さらに警告してもよい事柄である。それなのに、なんら予備的語りは無い。無条件での語り掛けである。それに無条件で応えてほしいからだろうか。語り掛けの背後にある無条件の愛に気付き、それに応答してほしいからだろうか。警告されて聞くのではなく、愛に応答し、信じて聞くことである。

そのとき、語りかけられていることが聞こえてくる。聞こえてくるとき、聞いている者が愛されていることを知る。ただ聞きたくなる。

2022 年 6 月 20 日